

長浜統合新校設置懇話会 第3回会議 概要

1 日 時

平成25年9月19日(木) 18:30~20:10

2 場 所

県立長浜北高等学校 セミナーハウス

3 会議の内容

- (1) 統合校名の教育理念、教育方針等について
- (2) 校名募集要項および校名募集用紙について
- (3) その他

4 出席者

(1) 委 員

浅見 幸則 委員(長浜市PTA連絡協議会 会長)
岩崎 陽子 委員(長浜北高等学校 学校評議員)
北川 庸子 委員(長浜高等学校 学校評議員)
藤居 茂樹 委員(長浜市企画部 部長)
宮腰 悦子 委員(児童文化活動支援グループ「すずめの学校」 代表)
吉田 豊 委員(長浜北高等学校同窓会 会長)
田中 智佐人 委員は欠席

(2) 統合新校開設準備室等

辻 浩一 統合新校開設準備室長(長浜北高等学校長)
堤 須賀彦 統合新校開設準備室参事(長浜高等学校長)
茶谷 不二雄 県教育委員会事務局学校支援課参事

5 主な意見

(1) 統合校名の教育理念、教育方針等について

長浜北高校の校訓は、創立100周年記念以来「自彊不息」を用いている。長浜高校の校長室にも掲げられており、新校の校訓もこれが良い。

新校がどんな学校になるかイメージが湧いてこない。今回、示された教育目標を達成するための具体的な教育内容も示した方がよい。

教育目標等とは別に、生徒にアピールでき、生徒が行きたいと思うようなキャッチフレーズなどをパンフレットに盛り込んでいくことも検討したいと考えている。

教育目標等は素晴らしいが、この中から目玉となるものをあげてもらい、これを懇話会委員

が、率先して各方面で説明したいと考えている。

全県一区制度の影響で南へと生徒が流出している。再編計画で打ち出された新校の位置付けが担保されるよう県教委も努めてもらいたい。

部活動も英語教育と同様、新校の校風をつくるものになる。

英語教育というと、読みや、話すことがイメージされるが、英語を使ってしっかりと現地の人と付き合うことができるかが大切。

グローバル社会で活躍するための英語教育で大切なことは、中高時代に文字で頭に入れた英語を基礎として、他者に思いを伝えられる表現力を身に付けることが大切。そのためには、日本語でいいから人前で楽に話せるようになるトレーニングや、ディベートなどに取り組んでおくことが必要。

生徒が来てくれなかったらいい学校にはならない。例えば、新校での学習によって英会話ができるようになるなど、特色ある教育内容を打ち出すことが大事。

基本構想を立て、下部へぶら下がる構造で施策を進めていくと、実際にはスムーズに基本構想と施策がマッチングしてうまくいったり、場合によってはうまくいかなかったりもする。今回のように教育目標や教育方針を打ち出す場合も、具体的な教育内容を見据えた上で検討することが大切。

教育目標に「社会に貢献できる人材を育てる」とあるが、新校の生徒の多くは大学へ進学し、その後、社会貢献をすることになる。これが大学卒業後まで担保できるのか。

高校での学びが何らかの形で、生徒が将来、社会貢献するために必要な力をつけることに繋がると考えている。

平成28・29年度の統合移行期が新校の礎になる。この時期の教育内容等もしっかりと打ち出すことによって生徒を確保したい。

統合新校は平成28年度に開校するが、平成26・27年度のことが分からず保護者や生徒は不安に思っている。この期間についての具体的な取組を示す必要がある。

分かりやすいキャッチフレーズは考えないのか。また、英語教育の重視について、例えば修学旅行を海外で実施することなどでアピールすることは考えないのか。

ご指摘いただいたことについても、現在、開設準備室で検討している。

学校が発展するチャンス。小さな改革では発展は期待できない。思い切った斬新的な改革を期待する。

教育目標等はそつなく網羅されており、これでいいと思う。

他の学校にはない具体的なアイデアや特色を出してほしい。重点目標を絞り、県民の皆さんに分かりやすいものを示した方がよい。

今日いただいたご意見などを基に、さらに具体的な教育内容等について検討し、これらについても意見を伺うことになると考えている。

(2) 校名募集要項および校名募集用紙について

一般県民への周知は県教委の広報誌や、報道機関等への資料提供で対応したい。

校名募集要項および応募用紙はこの形でよいと理解させていただく。

長浜統合新校の校訓、教育目標、教育方針について(案)

長浜統合新校開設準備室

校 訓

「自彊不息」(じきょうやまず): 休むことなく努力する

出典「易」:「天行は健なり。君子以て自彊息まず。」による

両校の校訓を引き継ぐ。教職員、生徒双方に求めることができる校訓。

教育目標

「人格を陶冶し、自立と共生の精神を培い、社会に貢献できる人材を育成する。」

「人格の陶冶」: 教育の普遍的な目標。

「自立と共生の精神を養う」: 主体性と自主性から「自立」へと導く。「自立」を排他的な観点で捉えるのではなく、他者との関わりの中で、グローバル社会の中で、多様な価値観や考え方を認め合い、他者とともに生きていこうとする「共生」の精神と両立させる。

「社会に貢献できる人材の育成」: 最終的には、それぞれの分野で、社会に貢献できる人材を育てる。

教育方針

「自己の可能性を追求し、高い目標に向かって努力する姿勢を育む。」

校訓の具体化。何事においてもより高い目標に向かって努力し、その姿勢が自己開発につながる。

「自ら学び、考え、判断する力を持つ、自立した学習者を育成する。」

自主的、主体的な学習態度の育成を目指す。あくまで、基礎基本の習得のあとに期待する学習態度である。

「自らを尊び、他人を思いやり、助け合う心を涵養する。」

教育目標の中の「人格の陶冶」、「共生」の具体化。自分を大切にすることが他人を大切にすることにもつながり、相互扶助の共生社会を構築する。「自らを尊ぶ」は自分の持っている資質、能力を発見し育てることにもつながる。

「自らを律し、心身ともにたくましい生徒を育成する。」

けじめのある生活習慣が文武両道を可能にする。

「グローバル社会において、高い志を持ち、主体的に行動できる資質や能力を育む。」

若者たちの内向き思考、同質化志向、周囲との摩擦や衝突を避け自らを主張できない傾向から脱却し、グローバル社会を舞台にして、相手の意見をしっかり聴き、自分の意見をはっきり主張できる人材を育てる。県のモデルとなる英語教育を展開する。

「郷土を愛し、伝統・文化を尊び、地域の発展に尽くそうとする態度を育む。」

グローバルな視点で学んだことを地域の活性化に生かしていく。